



近代木造の哀しみ

—なぜ近代木造は滅びていくのか

明治期に発達した近代建築は、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の新たな建築物を生み出したが、日本で古くから用いられてきた木造建築の中にも近代の建築技術の発達とともに生まれた近代木造建築がある。1919年の市街地建築物法や1950年の建築基準法の制定により大規模な木造建築の建設が制限されるまでは、近代建築としての大規模木造建築が生み出されてきたのである。1900年代に建設された近代木造建築は、現在100年近い年月を経過し、取り壊しか改修の選択を迫られている。

近代木造建築は、工場や倉庫などの大規模な産業建築が多く、社寺などの伝統木造建築とは異なり、一般の人々に対しては建物だけでその価値を見出すことは難しい。その建物の歴史的意味や構造技術といった評価や実際に活用していくことが、近代木造建築保存には必要不可欠である。また、保存のためには地元住民はもちろん、外部からの技術支援も重要な役割を担う。

今回、近代木造建築の保存・活用のあり方について考える。



2012年3月26日(月) 14:00～17:30
東京大学生産技術研究所 An棟ホール

- 14:00 挨拶
- 14:05 基調講演
「近代木造建築の価値」
長尾充(文化庁文化財部参事官)
- 14:45 「近代木造とは」
腰原幹雄(東京大学生産技術研究所・准教授)
- 15:00 「軍艦島、製粉工場、繭倉—こんな木造建築があった」
滋賀秀實(東京電機大学・名誉教授)
- 15:30 「繭倉の解体—そして何もなくなった!？」
村松伸(東京大学生産技術研究所・教授)
- 16:10 パネルディスカッション
- 17:30 閉会

■参加申込方法

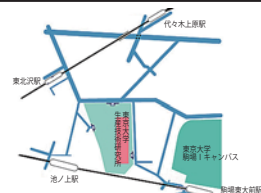
参加費：無料 懇親会費：1,000円
氏名(ふりがな)・所属(会社名もしくは学校名)・連絡先(メールアドレスもしくは電話番号)・シンポジウム参加申込人数・懇親会参加申込人数をご記入の上、メールもしくはファクシミリにて右記問い合わせ先までお送りください。

■主催

建造物の総合的保存保全に関するグループ

■問い合わせ先

建造物の総合的保存保全に関するグループ
東京大学生産技術研究所 腰原研究室内
Fax: 03-5452-6841 Mail: mokuzo@iis.u-tokyo.ac.jp



■交通案内

駒場東大前駅(京王井の頭線)
西口より徒歩10分
代々木上原駅(小田急線・東京メトロ千代田線)
徒歩12分
東北沢駅(小田急線)
徒歩7分
〒153-8505
東京都目黒区駒場4-6-1
東京大学生産技術研究所駒場リサーチキャンパス